

藤島歴史公園が開園



こりす保育園の児童が歩き初め



藤島歴史公園開園式テープカット

藤島歴史公園の開園式が22日、現地で開催されました。1992(平4)年度に日本一ふじの里づくり計画「ふじの里づくり物語」、及び「中央公園(歴史公園)基本構想」が策定されてから23年経過しました。当時は「ふれあいと躍動の広場」「ふじ公園」「中央公園」の3公園構想でしたが、後者の2つを統合して「歴史公園」としました。1998(平10)年度に住民参加の歴史公園構想づくりワークショップがおこなわれ、整備構想の土

合がつけられました。第1期事業は鶴岡市に合併後、元町の都市再生整備計画の一環として、国土交通省の社会資本整備総合交付金(旧まちづくり交付金)を受け、2006(平18)年度から10(平22)年度に駐車場整備などが実施されました(事業費は5130万円)。第2期事業は11(平23)年度に東北公益文科大の温井亨准教授をアドバイザーに住民9人が先進地視察を含む5回のワークショップをおこない、基本計画と基本設計が策定され事業着手されました(第2期事業費は3億1050万円)。

おごりなくして知性を好む藤島の民情とびったり

町の花「藤の花」は、町村合併30周年を記念して1984(昭59)年度に制定され、当時の記念誌「町勢要覧1985」には次のように掲載されています。「5月初めから中旬にかけて、甘い香りをた

えて咲くふじは、清楚で高い気品がある。決して豪華絢爛ではないが、もの静かな平安の美女を連想させ、おごりなくして知性を好む藤島の民情とびったりしている。町名の起因についてはあきらかではないが、祖先が「藤島」と呼んだことは多分に「藤」とかわりが想像される。」

紹介：京都大学有志の会の「声明」に共感が広がっています。

自由と平和のための京大有志の会「声明」

戦争は、防衛を名目に始まる。戦争は、兵器産業に富をもたらす。戦争は、すぐに制御が効かなくなる。戦争は、始めるよりも終えるほうが難しい。戦争は、兵士だけでなく、老人や子どもにも災いをもたらす。戦争は、人々の四肢だけでなく、心の中にも深い傷を負わせる。精神は、操作の対象物ではない。生命は、誰かの持ち駒ではない。海は、基地に押しつぶされてはならない。空は、戦闘機の爆音に消されてはならない。血を流すことを貢献と考える普通の国よりは、知を生み出すことを誇る特殊な国に生きたい。学問は、戦争の武器ではない。学問は、商売の道具ではない。学問は、権力の下僕ではない。生きる場所と考える自由を守り、創るために、私たちはまず、思い上がった権力にくさびを打ちこまなくてはならない。



公園の概要

公園種別	都市公園(近隣公園)		
敷地面積	24,064㎡(うち東田川文化記念館敷地 6,520㎡)		
事業費	第1期	5,130万円(うち国庫補助金 2,050万円)	
	第2期	3億1,050万円(うち国庫補助金 1億1,230万円)	
公園施設	藤棚 (溶融亜鉛メッキ鋼管製)	大藤棚(30m×30m)	野田長藤
		フジのトンネル(W9m×33m)	野田白藤
		フジのトンネル(W3m×L54m)	野田口紅藤
		スクリーン型藤棚(H3m×L39m)	野田白藤
		藤棚(12m×12m)	八重黒龍藤
	トイレ	男子用、女子用、多目的トイレ併設	
	あずまや	3m×3m 木造	
	公園施設	園路 728m、池 3箇所、ベンチ 3基、案内板 2基	
		太陽電池ポール時計	藤島ライオンズクラブより寄贈
	植栽	八重桜 10本	前野会より寄贈
河津桜 20本		工藤正喜氏より寄贈	
高木(ヤマボウシ他) 34本			
中木(ヒイラギモクセイ他) 44本			
生垣(マサキ) 330m			

開園のあゆみ

年度	主な事業
昭和59年度	町の花「藤の花」制定
平成4年度	日本一ふじの里づくり計画「ふじの里づくり物語」策定 「中央公園(歴史公園)」基本構想策定
平成8年度	藤島町総合計画「日本一ふじの里づくり」策定
平成10年度	「歴史公園」公園構想づくりワークショップ開催(計6回実施)
平成16年度	藤島中心街まちづくり計画書策定(藤島中心街まちづくり協議会)
平成17年度	藤島元町地区都市再生整備計画策定(国土交通大臣へ提出)
	第1期計画期間：平成18年度～22年度 事業内容：藤島歴史公園整備(第1期) ・駅前ロータリー整備・藤島城址前整備
平成19年度	用地測量業務委託・歴史公園用地取得(2,905㎡)
平成20年度	歴史公園用地取得(917㎡)
平成21年度	藤島歴史公園測量・実施設計業務(第1期整備)
	旧東田川郡役所正面バリアフリー化工事
平成22年度	歴史公園駐車場整備工事(収容台数35台うち障害者用2台)
	都市公園設置告示(第1期整備区域) 藤島元町地区(第2期)都市再生整備計画策定(国土交通大臣へ提出) 第2期事業期間：平成23年度～27年度 事業内容：藤島歴史公園整備
平成23年度	藤島歴史公園基本計画・基本設計業務委託(第2期整備) 基本計画策定ワークショップ開催(計5回実施)
平成24年度	藤島歴史公園実施設計業務委託 用地先行取得(一般財団法人鶴岡市開発公社)
平成25年度	先行取得用地買戻(12,575㎡) 藤島歴史公園盛土造成工事
平成26年度	藤島歴史公園整備工事
平成27年度	藤島歴史公園芝生等植栽整備工事
	藤島歴史公園ロープ柵等設置工事 都市公園区域変更告示(第2期整備区域を追加) 開園式典

東京(日本橋)から 京都(三条大橋)まで 中仙道テクテク一人旅(その1) (新町T・S)

島崎藤村作「夜明け前」は「木曾路はすべて山の中である。あるところは岨(そで)づたいに行く崖の道であり・・・」で始まります。

「夜明け前」を読むといつもコックリ・コックリ。ある時何故だろうと考えておりましたら、「そうだ、自分には江戸末期の歴史と中仙道の地理に関する知識が無いから」と思い約550kmの街道を歩く事にしました。

最初、あの震災に襲われなければその年の春に歩く予定をしておりましたが、変更をして盆過ぎに日本橋からテクテクと関東平野を西進し高崎へ向かいました。

新幹線だと東京から高崎まではあつという間に着きますが、歩いたら大変。足に豆を作つてビッコをひきひき数日かかつてやっと高崎まで着く事が出来ました。



しんぶん赤旗日曜版 7月12日付

15日は共産党創立93

若者が、創立93周年の党へ

—「しんぶん赤旗」を読んで 青山 崇

関東平野ってほぼ平坦ですが、歩道の微妙な傾きが、長い距離を歩く人にとつて足にダメージを与えるという事を知り、晴天の日も勿論雨の日や風の日もただ歩くことしか考えない日々でしたが、途中の埼玉県熊谷では福島原発事故からの避難家族と同居する機会がありました。

熊谷には夕方やつと着き、着くやいなや宿の食堂に入つて行くテーブルの一つに4人の方が座つておりました。黙礼しても何も返してくれないし変な人達だと思つてご飯を食べておりました。気になつて翌日宿の従業員に尋ねてみたら、その方々は福島県からの原発避難者だということでした。

従業員の方の話によると「家族は4人で、お婆さんと子供さん夫婦、それに20歳代の孫さん」ということでした。若い孫の方は仕事も無く一日何もしないで部屋に閉じこもつていることが多く、外出する事といえば病院にお婆さんを連れていく時のみと顔を曇らせておりました。

あの大災害を忘れたかのように今の安倍政権は傲慢に振る舞つておりますが、いつか同じ事が繰り返されないとは限りません。

その時、日本人は住むところを失つた流浪の民になりかねません。あの家族の事を思い出すと、先日の安倍首相が記者会見で述べた「主役は国民一人ひとり・・・」の言葉が欺瞞に満ちた空虚な言葉にしか私には聞こえませんでした。



強行採決の罪ホロボシにはなりません

国立競技場建設を白紙撤回するとのヒトコトは、自衛隊員が死ぬ危険と日本がアブナクなる法律の強行採決の罪ホロボシにはなりません。

▼ダイタイが数のオゴリからくるデタラメなんだヨ。提案もしていない法律の成立を外国に約束することも、金の裏づけのない工事を進めることもダ。

▼白紙撤回は世論に押されてのことだが、強行採決後の思いつきか。前日までは、もう時間がないから動かせないと言つていたんだからテノヒラ返しなんだヨ。働いていた重機は明日からナニスルヤ。

▼どつちにしても五輪は原発事故を0・3km²で管理されているナンテ首相がウソをつきオモテナシ(表なし)のも

も、「選挙で投票すれば」と思つていたが、「自分が参加することで政治は変わる」と言われ決意。

18日開催の創立記念講演会に、アイドルグループ「制服向上委員会」の木梨夏菜(16)、齋藤優里彩(20)さんら5人が参加し「戦争法案を廃案にして、日本を平和のリーダーに」と語っています。

党員は、①しんぶん赤旗読む②支部会議出席③活動参加④党費(実収入1%納入)の4つを大切に活動します。

言葉で取ってきたんだから、ウマクいけばいいんだがネー。

▼首相が好きな「マサニ」を使えば、これがマサニ第1のツマツキでないといいんだが。イヤ、東京だけでヤルと言つたものが数県に分散すると言つたから第1はあつたのか。

▼ところで白紙撤回とオオミエを切つても、今年の予算はナンボでどこまでの仕事だったのヨ。完成までの年次計画はどうなつていて、どう変わるんだらうかねー。事務屋は困つてゐることだらうぜ。

▼しかし、こんなオオナタを振るえるアンタの一言でナントカシテヨと思つてますですヨ。仮設住宅で暮らしている人々。家族がバラバラにされている人々だ。

▼今は暑くて困つてる人々は、もうすぐ寒くて困る人々なんですヨ。ナ、アベさんよ。

(石川)